

入賞

放射線と福島

福島県立会津学鳳高等学校(総合学科)・1年 サイトウ 齋藤 ミヅカ 水月花

今にも落ちてきそうな大きなライトが頭の上で揺れている。体育館のあちこちから響く幼い子の泣き声。私の震災の日の記憶はそこから始まっている。数日後、テレビを見ると建物から煙が上がっている映像が流れていた。それが原子力発電所だとわかったのは小学生になってからだったと思う。震災から間もなく、私の生活の側にはいつも「放射線」があった。学校から「放射線が危険だからあまり校庭では遊ばないように」と言われたり、何も知らないまま甲状腺検査を受けたりしていた。毎日天気予報を見ては風向きを確認し、放射線が流れてくることを恐れていた。事故後は風評被害も激しく、福島産の食品の購入はためらわれ、福島県から避難した子どものいじめも問題になった。中学生になってから霧箱の実験をしたときも、私も友達も恐る恐る放射線の軌跡を見ていた。昔の私に「放射線に対するイメージは?」という質問をしたら、間違いなく「怖いもの、命の危険に関わるもの」と答えているだろう。

実際、原発事故により何人もの人々が被曝した。チェルノブイリ原発事故でも放射線による犠牲者がいた。私が過去に見た東海村JCO臨界事故の決死隊の二人の被曝後の写真は、私に放射線の恐怖を植え付け、放射線に良い印象はなかった。

しかし、原子力発電所は歴史を遡ると「核の平和利用」を目的に生まれたものだ。人を傷つけたりおびえさせたりするならば、それは兵器と何ら変わらないのではないか。確かに原発事故によって放射線の悪い面にますます多くの人が注目している。だが、一口に「放射線」と言っても悪いことばかりではない。

私は高校生になり、学校で行われた放射線セミナーに参加した。放射線とは何か。自然放射能や放射線のいろいろな利用方法について。放射線の影響を受けた細胞は新陳代謝で更新されること。現在の状況なら、原発事故による放射能について神経質になることは

ないなど、様々な放射線の良い面や正しい知識を得る中で、「放射線といえば原発」という私の思い込みは消えていった。

テレビを見ると、「原発事故から〇年」や「被災者の声」といった番組がしばしば放送されている。そこから、必ずみんな前を向いていることが伝わる。頑張ろうという気持ちが湧いてくる。福島での除染の様子、瓦礫の撤去作業などの取り組みを見ても、原発事故を乗り越えて未来を見ていることがわかった。

周囲の人々が希望を持って前に進もうとしているところを見て、私は少し後ろめたい気持ちになった。自分は原発の悪いところばかりを見て、悲しい過去のことしか考えていなかったからだ。犠牲になった方々やつらい思いをしている人のことを忘れてはいけないのは確かだが、それと同時に私達が未来の福島をどれだけ幸せにしていけるかを考えることも大切だと思う。

県民が安心して普通の暮らしができる。他県からの偏見がなく、自信を持って福島の魅力を発信できる。そんな未来になってほしい。私自身、放射線や原発に不安や偏見があった身として、これからは放射線の良い面も見て周りに広めていきたい。

大人になったときに「私は福島で育ちました」と誇りを持って言えるような素敵な県になることを願っている。